

## 船井情報科学振興財団 第3回留学報告書

イエール大学化学&環境工学博士課程1年生の兼田真周です。昨年8月に渡米してから日々授業や実験に追われてあっという間の1年間でした。二つの研究グループに所属する co-advisor システムに未だ慣れません。第3回目の留学報告書では、2021年1月から8月までの出来事をご紹介します。

### 授業・研究

5月末に春学期が無事終わり、博士課程プログラムで課されている授業の卒業要件を満たすことができました。秋学期と同様に今学期も座学3科目と研究発表の1科目を履修しました。本来、卒業要件として更に2科目の座学授業を履修しなければなりません。北海道大学の修士課程で受講した専門科目の単位を移行することが出来たので、最後の必要科目の取得は免除されました。今後は興味のある授業があれば聴講という形で積極的に参加していきたいです。結局昨年から授業は全てオンラインでした。周りの先輩学生からは例年と勝手が違うので苦労しそうだと言われていましたが、いつでもオンラインで授業板書やディスカッションの内容を復習することができたので便利でした。ただ、アメリカ大学院の授業は日本と比べて大変だという噂は本当で、春学期の最後はテストにレポートに実験に我を忘れて大忙しでした。

博士課程1年目のラボローテーション制度が終わり、2年生からは正式に化学&環境工学科の Elimelech 先生と Zhong 先生に co-advisor として師事することが決まりました。実は当学科ではこのローテーション制度は殆ど形式上なものとなっており、大抵の学生は1年生の時に所属していた研究室にそのまま進学しますが、1年生の間は正式な研究室の一員として見られないため研究グループ内の種々の役割や責任が免除されてきました。環境工学を専門とする

Elimelech 先生のグループでは毎週進捗状況を提出し、高分子化学を専門とする Zhong 先生のグループでは毎月と隔週にそれぞれ進捗状況を報告します。二つの研究室に所属していると新しい知識に触れる機会が増える一方で、通常よりも課題やミーティングの分量も増えるので、両先生とのコミュニケーションをより一層重視したいです。特に先月から助教授である Zhong 先生率いる研究室のマイクロマネジメントが目にも余るようになってきたので注意しています。

## 生活状況

今でこそワクチン接種が進んでいますが、今年2月にアパートのルームメイトが陽性になり、大学から電話で濃厚接触者だと告げられとても焦りました。このため私は10日間の自宅待機を命じられ、研究室も1週間の閉鎖となりました。アパート内では共同バストイレの使用を巡ってルームメイト同士で少しピリピリした雰囲気にもなり、コロナの脅威を一番身近に感じた時期でした。結局アパート内で感染は広まらず、陽性者も無事回復して大事には至りませんでした。しかし同じ時期に、アパートから歩いてすぐの住宅街で大学院生が拳銃で撃たれて死亡する事件がありました。大学の警察科から注意喚起のメールが届いた後、死亡が確認されてからは大学学院長から事件の詳細と被害者の身元に関する情報が連日メールで送られてきました。結局被疑者が数日後には特定され無差別ではなかったのですが、それが発覚するまでは夜は念の為に友達と時間を合わせて一緒に帰宅していました。

春学期が終わり、大学が夏休みに入ると授業の負担が無くなったので、週末にはニューヨークへ数回遊びに行きました。電車で往復4時間強かかるので午前中早くに出発して夜中に帰ってきます。豪華な美術館や普段は見かけない人混み、見上げるほどの高層ビル群の中を歩いているだけで気分がリフレッシュされます。いくつか写真を下に載せました。ボストンの方へも足を伸ばしてみたいのですが相変わらず自動車免許の取得を先延ばしにしているのでなかなか計画が進みません。来週はアトランタへ学会で訪れるので楽しみです。

## おわりに

博士課程1年目は想像以上に授業が忙しく、時間と気持ちに余裕がない毎日でした。また2人の指導教員に師事するなど予想外のことがたくさん起きました。来月から始まる2年目は苦労や困難を噛み砕きながら楽しんで行けたらと思います。何より対面式の新学期なので、交流会へ参加して新しい友達に会えることを期待しています。いつも船井情報科学振興財団の皆さまの温かいご支援を有難うございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



左上：ビルの屋上からマンハッタン

右：Zhong グループで夜ご飯

左下：Elimelech グループでビーチ